

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300150		
法人名	特定非営利活動法人 ふくし京丹後		
事業所名	グループホーム 善王寺		
所在地	京丹後市大宮町善王寺527		
自己評価作成日	令和4年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
調査日	令和4年3月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が田畑、遠くに山がそびえる。テラスの眺めは四季折々の季節の移り変わりを眺めながら食事をしたり、生活を楽しくしています。時々コウノトリやシラサギの飛来があり、コウノトリによく似たシラサギの時は会話がはずみます。安らぐ環境の中でご利用者の維持向上を計り、生活リハビリの一環として、時間を要しても出来る事はして頂く能力低下防止につなげている。コロナ禍で外出不可の中の取り組みとして今年度は園芸療法を取り入れ、全員で苗植え、水やり、草取り、途中に芽づる試食、収穫、調理、利用者さんの手で運営推進会議の構成員の方に提供し試食して頂く事が出来ました。京丹後市主催の介護研究発表会に「昔に戻って畑仕事」の題材でも発表する事が出来ました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都府北部大宮町にある2ユニットのグループホーム、開設10年になる。職員も丹後地方の出身者が多く、利用者という他人を介護するという意識ではなく、家族や親類のような気持ちで、お互いの暮らしを支え合っている。しかし、「利用者の尊厳を守る」についてyは理念に明記し、常に意識して日常の業務に励んでいる。利用者の「思い」を深く考え、その思いに寄り添って、かなえてあげたいという気持ちを強く持っている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝2ユニット合同で夜勤者と日勤者の申し送り終了後理念の唱和を継続している。職員会議で理念の内容について検討し、日々理念に沿った支援を管理者を含め全員で実践している。	以下の項目すべて「」「さくらユニツ」に同じ。」	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では区長さんや民生委員の皆さんの出席をお願いし、地域の行事やイベント情報をお聞きしている。可能な限り地域の文化祭の出展、作品を見せて頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和3年度は京丹後市主催で8グループの福祉施設が介護研究発表会に参加GH善王寺も「昔に戻って畑仕事」題材でさつま芋の苗植えから収穫、運営推進会議で利用者さんの手で提供、美亜さんに手作り感あつてと好評でした	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況について入居人数、介護度変更、希望待機者、ヒヤリハット等を毎回報告を行っている。市職員の方に京丹後市の最近の情報を聞き、サービス向上に生かせるものは、参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二カ月に一度の市町村の集団指導もコロナ禍でズームが主流、コロナワクチン接種の情報など密に連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とともに、スピーチブロックにあたらぬかなど、毎月職員会議で取り上げている。身体拘束についても三要素を理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・施設内研修で虐待防止について勉強会を行っている。新聞報道などで虐待の記事があれば回覧し、情報を全員で把握できるようにしている。玄関、ユニット入り口は夜間以外は施錠していない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、尊厳を持って対応できるように常に心がけている、日常自立支援事業を職員会議などで話し合いの場所を設け、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約内容を説明し、ご本人・ご家族様に納得して頂いた上で締結している。介護保険その他契約内容の変更が有った場合、説明をし、納得頂いた上で再契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様代表2名参加して頂き、意見、希望等お聞きしている。家族様が面接に来所された際にご意見や要望を聞かせて頂き、出来る事は運営に反映させていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、A・B各ユニットケア会議で運営に関する意見を聞き、提案があれば運営に反映出来る様意見を取り入れている。又毎日の業務の中で提案があれば申し送りノートに記入し、職員同士で確認できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ユニットリーダーが、職員各自の労働状況を確認する事で、職員の努力や実績が給与・賞与に反映出来る様な体制作りを行っている、又、時間外労働はしない状態で勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修会等の参加を積極的に進め参加している。事務所内に介護資格受験のための書籍や新聞などの情報が閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内8つのグループホームとの意見交換会は中止の状態が続いており他施設との情報交換はおもに電話で行うか、6か月に一度位は交流会があり参考にさせて頂いています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期では出来るだけご本人の思いや要望を聴くことが出来るように、又ご本人と信頼関係を築くことに重点を置き、聞き手に回るよう努めている。傾聴、共感に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人、家族様の困っておられる事・希望を聞かせて貰い、解決策を提案、納得して頂いた上で入居して頂ける様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・家族様から頂いた情報の中から安心・安全のためにまずしなければいけない情報を見極め、その後の支援に生かせる様活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者が介護される立場ではなく、人生の先輩であり職員も教えて頂き学びながら、自立支援に力を入れ、暮らしを共にする者同士だという関係を築いていく様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけでなく、ご家族様の体調や心配事を面会時にさりげなくお聞きして家族様の心身のケアや相談も受けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が面会に来られた時、お部屋で懐かしい話などをして頂ける様に支援させて頂いています。関係が途切れる事が無いように関係性を聞き今後の支援に繋げる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席で仲の良い利用者様を隣にしたり、気の合わないご利用者が隣り合わせにならない様見守りをして配慮している。職員の話の提供により会話が弾んで和やかな雰囲気になるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで病院側から、グループホームの生活に戻る事は難しいですとの判断を頂いた時、家族様の立場に立ち今後の行き先を確保出来る様に家族様と相談しながら支援しています。又退所される時簡単なお手紙を同封させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを聞き、叶えられる事は叶える様にして、家族の協力が無いと不可能な時は、家族に話をしたり、職員同士で情報共有を行い、思いに少しでも近づける様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供により得られた生活歴・生活環境等を元に、ご本人の記憶の範囲内で情報確認を行っている。ご本人に聞けない事柄は家族様に教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でいつもと違う様子だったり、出来ていたことが出来なくなったりと言った変化に注意し観察を行っている。ケア会議で議題に挙げ職員間で情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回ユニット会議を行いモニタリングをして確認しあっている、見直しをする時、ユニット職員の意見を聞きながら進めている。ケアマネージャーが確認し、最終的に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子やケア内容を記録している。夜勤者、早出、遅出の職員間どうしで引継ぎを行い、情報を共有している。ご本人の発せられた言葉や様子を記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内の祭りや文化祭への参加、近くの診療所で月1で映画観賞会が行われ興味のない人以外はほぼ全員参加している。イベントの時などいつも協力して下さるボランティア方がおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや文化祭への参加、近くの診療所で映画鑑賞会が月一回行われるので、興味のない人以外はほぼ全員参加している。イベントの時などいつも協力して下さるボランティアの方がおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を大切に、協力医院の往診に付き添い、その他の通院はご家族様が付き添われ受診して頂いている。ちょっとした体調の変化も主治医に伝え家族様にも報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、系列の看護師にちょっとしたことでも相談できる体制はある。協力医と連携して適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り職員が面会し関わりを行い認知症状の緩和に努めている。服薬と通院程度の医療ならば退院に繋げる様働きかけスムーズな利用復帰に努めている。又退院カンファレンスに出席して解らない時は聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取りを体制は整えられていないが、家族様には入所時に重度化、終末期に向けた方針を説明している。家族様に安心して頂ける様に最後まで支援させて頂く事で納得して頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の変化に適切に対応し、必要時救急搬送を行っている、応急手当や初期対応の施設内研修を行い、実践となる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を消防署の指導の元で行い、地域の方や運営委員会役員様の参加を頂いている。施設独自のマニュアル、連絡網を作成している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの勉強会を何度か重ね、職員も理解して言葉かけに注意している。理念にもある様に尊厳を守る事は重要だと、どの職員も考えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の重要性を認識している、特別な日でなくても、会話から好きな事、好きなメニューを聞き希望を叶える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて食事や入浴の時間をずらす事もあります。食事に時間がかかる方には焦らせない様、「時間がかかっても良いですよ」と声掛けをし、ペースを崩さない様配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持参された好きな服を着用して頂いている。出来る方は自由に着こなしをして頂き、出来ない方はご本人のイメージに合わせて、天候や行事に合わせて職員が支援させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の残存能力に応じて調理補助、盛りつけ、味付け、配膳準備を一緒に行っている。ご利用者の好きな物、嫌いな物を聞き、嫌いな物があれば調理方法を考えて摂取して頂く様配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス等、一人ひとり個別対応している。既往歴に注意し、塩分量、糖分の過剰摂取が無い様気を付けながら支援している。服薬の中には禁止食材がある為気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い、口腔ケアを行っている。出来る方はそのまま見守り、出来ない方は洗面所まで誘導しご自分で洗って頂く様促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄で時々失敗の有る方は誘導したりして、排泄の自立に向けた支援を行っている。又御本人の出すサインを見逃さない様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが難しい方が数名おられ、Drと相談、下剤服用で様子を見たり、水分補給にも努める。運動、排便を促す食事などの提供を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を確認し、湯の量や湯加減の希望を聞いたり、入浴中はゆっくり湯船につかって頂き世間話をしながらリラックスして頂けるよう心掛けている。同性介助を希望される方には同性介助で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日就寝時間・起床時間を記録し睡眠パターンの把握に努めている。就寝時、適温になるよう個々に空調を調整している。入眠に時間がかかる人には傾聴したり、日中の過ごし方も考慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などにより薬の変更があった場合、薬の名前、効能副作用など必要な情報を受診・往診記録に記載し、それによって利用者さんの状態の変化がないか、申し送りノートに記入し引継ぎを行い職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きの方には、本を提供したり調理や片付け、掃除等は本人の「やりたい」気持ちを尊重して手伝って頂いている。音楽に興味のある方には合唱やカラオケと一緒に歌っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、近所への買い物、なじみの場所など自発的な要望を伺ったり会話の中に出て来る事柄から推測して行きたい場所、見たい物がある場所に外出できるようにしている。回転寿司、ランチ、又面白そうな映画があれば映画鑑賞にも行く。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を渡してもどこにしまったか判らなくなる方は事務所で保管し、買い物など必要時にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも自由に電話が掛けられる事をご利用者に伝えています。電話が掛けられない方は相手の方が出られるまでお手伝いしています。手紙が読めない方には職員が代わりに読ませていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節の花を飾ったりソファに腰かけながら外の景色を眺めたり生活したりするスペースがあります。玄関先にはプランターに野菜を植えご利用者と一緒に収穫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居心地の良い場所となるように工夫している。時間があれば気の合ったご利用者同士おしゃべりが出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、親しんだ物品を居室に持ち込んで頂く様入居時から働きかけを行っている。居室内には使い慣れた家具や手作りの品物、家族様の写真を置かれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりが自立して生活出来るように安全性に配慮してあります。廊下やトイレも広く車椅子でも十分対応出来ます。		

# 自己評

自己	外部
<b>I. 理念/</b>	
1	(1)
2	(2)
3	
4	(3)

自己	外部
5	(4)
6	(5)
7	
8	
9	

自己	外部
10	(6)
11	(7)

自己	外部
12	
13	

自己	外部
14	
<b>Ⅱ. 安心と</b>	
15	
16	
17	
18	
19	

自己	外部
20	(8)

自己	外部
21	
22	
<b>Ⅲ. その</b>	
23	(9)
24	
25	
26	(10)



自己	外部
27	

自己	外部
28	
29	
30	(11)
31	
32	
33	(12)

自己	外部
34	

自己	外部
35	(13)
<b>IV. その</b>	
36	(14)
37	
38	
39	
40	(15)

自己	外部
41	

自己	外部
42	
43	(16)
44	
45	(17)
46	
47	
48	

自己	外部

自己	外部
49	(18)
50	
51	
52	(19)
53	



自己	外部
54	(20)
55	

価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>に基づく運営</b>			
○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝2ユニット合同で夜勤者と日勤者の申し送り終了後理念の唱和を継続している。毎月の職員会議で職員会議で理念に沿った職員のあり方に触れている。	グループホームの理念は「思いやりと笑顔の介護、地域に貢献します」であり、開設時に職員が検討して策定している。玄関、相談室に掲示、利用者、家族、地域の人に周知している。職員研修を実施し、職員は理念の実践のため、常に笑顔を絶やさず、利用者優先の業務をしている。	
○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において区長、民生委員、家族様、コロナ禍においても地域の活動の情報の把握に努め可能な限り、文化祭など見学を心掛ける。	ホームの近くには郵便局、スーパー、理美容店等がある。ホームの日用品や食料は地域の店を利用している。利用者もスーパー、理美容店等を利用している。自治会加入は区長が歓迎して行事に誘ってくれる。クリーン作戦に参加している。ホームの前に四季の花や樹木等が植えてあり、利用者の外気浴や散歩道となっている。地域の人の利用相談を受け付けている。	
○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和3年度は京丹後市主催で8グループの福祉施設が介護研究発表会に参加グループホーム善王寺も「昔に戻って畑仕事」題材でさつま芋の苗植えから収穫、運営推進会議で利用者さんの手で提供、皆さんに手作り感があり好評でした。		
○運営推進会議を活かした取り組み			

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況について入居人数、介護度変更、希望待機者、ヒヤリハット等を毎回報告を行っている。市職員の方に、京丹後市の最近の情報を聞き、サービス向上に生かせるものは、参考にしている。	京丹後市、区長、民生委員、家族等が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。現在は会議ではなく、書面でホームの利用者状況、活動等を報告、書面で意見をもらっている。コロナ禍のなか、利用者の外出先のアドバイスをもらい、参考にしている。議事録は全家族に送付している。	
○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二カ月に一度の、市町村の集団指導もコロナ禍でズームが主流、コロナワクチン接種の情報など密に連絡を取っている。	市とは必要な報告を欠かさず、相談することもあり、連携を保っている。市の地域ケア会議に参加、情報交換や学びをしている。市のグループホーム連絡会、認知症ネットワークに参加している。	
○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束については、毎月職員会議で取り上げている。身体拘束についても3要素を理解している、玄関、ユニット入り口は夜間以外は施錠していない。	身体拘束をテーマに職員研修を年1回以上実施している。職員はスピーチロック、やむを得ず拘束する場合の3要件を認識している。身体拘束の事例として1人の利用者がベッド4点柵を実施しており、3か月ごとに検討会を開催、家族の同意をとっている。玄関ドア、ユニットドア、非常口、エレベーター等、日中はすべて施錠していない。	
○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に近い行為はないかなど職場で話し合っている、新聞記事などで関係する事が掲げていると、回覧をして全員で情報共有している。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護、尊厳を持って対応できるように常に心掛けている、職員会議においても自立支援など常に話し合える機会を設けている。		
○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約内容を説明し、ご本人・ご家族様に納得して頂いた上で締結している。介護保険その他契約内容の変更があった場合、説明をし、納得頂いた上で再契約を行っている。		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様代表2名参加して頂き意見、希望等お聞きしている。他の家族様からもご意見、要望など聞き参考にさせて頂き実行できる事はしている。	現在家族の面会は相談室でしきりを隔てて、検温マスク着用、15分以内としている。面会の多い人は毎月、少ない人は年1, 2回である。家族会や家族を招待する行事は中止している。家族には職員が利用者の様子を書いた手紙と写真を毎月送付し、家族から喜ばれている。家族の意見は「趣味のお茶を立てることが得意なのでホームでさせてもらって喜んでいる」、「電話をかけて母の元気な声を聞いてうれしい」等である。	
○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、A・B各ユニットケア会議で運営に関する意見を聞き、提案があれば運営に反映出来る様意見を取り入れている。又毎日の業務の中で提案があれば申し送りノートに記入し、職員同士で確認できるようにしている。	事業所の全体会議とユニット会議を毎月実施、会議では職員は積極的に意見を言っている。改善すべきことは法人も事業所も直ちに取り組んでいる。働きやすい環境づくりとして「自分の主張だけを繰り返すのではなく、相手の気持ちを考えるようにしよう」と職員には常に言っている。研修の実施は少ない。	利用者が認知症であるグループホームでは職員研修は大事である。必要なテーマを年間プログラムに組み込み、適切な講師を選択し、外部研修にも参加し、計画的に実施し、職員を育てることが求められる。また他邦人のグループホームとの日常的な情報交換と学び合いも大事である。

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ユニットリーダーが、職員各自の労働状況を確認する事で、職員の努力や実績が給与・賞与に反映出来る様な体制作りを行っている、又、時間外労働はしない状態で勤務している。		
○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修会等可能な限り参加を進める。研修委員により研修情報を集め皆が閲覧できるように解りやすい所に置き、希望者には研修担当が参加出来る様に協力する。		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内8つのグループホームとの意見交換会は中止の状態が続いており、他施設との情報交換はおもに電話で行うか、6か月に一度位は交流会があり、その時に意見交換があり参考にさせて頂いています。		
<b>信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期では出来るだけご家族から情報を頂いたり、ご本人の思いや要望を聴くことが出来るように、又ご本人と信頼関係を築くことに重点を置き、聞き手に回るよう努めている。傾聴、共感に努めている。		
○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族から頂いた情報の中から安心安全の為まず必要な情報を見極め、必ずプランの中には組み入れ、その後の支援に生かせるようにしている。		
○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・家族様から頂いた情報の中から安心・安全のためにまずしなければいけない情報を見極め、その後の支援に生かせる様活用している。		
○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者が介護される立場ではなく、人生の先輩であり職員の方も教えて頂き学びながら、自分の出来る事をやって頂き、暮らしを共にする者同士だという関係を築いていくようにしている。		
○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけでなく、ご家族様の体調や心配事を面会時にさりげなくお聞きして家族様の心身のケアや相談も受けています。		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援            本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者との会話の中で行きつけの美容院があれば行けるようにしたり、懐かしい話をされた時はその近くまで行ったり、会いたいと言われれば短い時間でもあって頂ける様にしている。</p>	<p>利用者の住んでいた家の近くの人が面会にくることもある。</p>	<p>長い人生を過ごしてきた利用者は今、最後の日々をグループホームで暮らしている。子どもの頃や学校での友達、仕事仲間、趣味の会の友達など、しばらく会っていないので、会いたいと思う。生まれた家、結婚して住んでいた家、毎年見に行った桜の名所、先祖のお墓、もう一度行きたい。このようにもう一度会いたい人、もう一度行きたい場所への支援をすることが求められる。</p>

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席で仲の良い利用者様を隣にしたり、気の合わないご利用者が隣り合わせにならない様見守りをして配慮している。職員の話題の提供により会話が弾んで和やかな雰囲気になるよう努めています。		
○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで病院側から、グループホームの生活に戻る事は難しいですの判断を頂いた時、家族様の立場にたち今後の行き先を確保出来る様に家族様と相談しながら支援をしています。又退所される時簡単なお手紙を同封させていた		
<b>人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	..思いを聞き、叶えられることは叶える様にして、家族の協力がないと不可能な時は、家族さんに話をしたり、職員同士で情報共有を行い、思いに少しでも近づける様にしている。	契約時には管理者やケアマネ、担当職員が利用者、家族と面談、利用者の介護、医療の情報を収集、家族と利用者のグループホームでの暮らしの希望を聴取、利用者はありのままの思いを話している。同時に利用者の生活歴を聴取し記録、職員が共有している。久美浜町、福井県峰山町等出身地、5人兄弟の次女、4人兄弟の長女、父の仕事は農業、大きな織物業等生家のこと、中卒後和服、お茶、お花の学校に通い資格をとる。夫の仕事は大工、公務員、結婚後町内の火災に会う。子どもは2人、商店、保育園、お茶の師匠、農協等、結婚後も働いている利用者が多い。趣味は茶道、オルガン等である。	
○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供により得られた生活歴・生活環境等を元に、ご本人の記憶の範囲内で情報確認を行っている。ご本人に聞けない事柄は家族様に教えて頂いている。		
○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でいつもと違う様子だったり、出来ていたことが出来なくなったりと言った変化に注意し観察を行っている。ケア会議で議題に挙げ職員間で情報把握に努めている。		
○チームでつくる介護計画とモニタリング	毎月一回ユニット会議を行い、モニタリ		認知症利用者の介護計画には身休



項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>ングをして確認しあっている、見直しをする時、ユニット職員の意見を聞きながら進めている。</p> <p>ケアマネージャーが確認し、最終的に作成している。</p>	<p>ケアマネと担当職員が利用者のアセスメントをし、介護計画を作成し、ユニット会議で他の職員の意見を聞いている。介護計画には利用者、家族、かかりつけ医等の意向を反映している。介護計画はほとんど身体介護の項目であり、利用者のその人だけの暮らしの楽しみの項目はない。認知症不穏時の対応の項目はない。</p>	<p>認知症不穏時の介護計画には身体介護のみならず、認知症不穏時の対応、傾聴だけでなく、その利用者がどんな状況のときに不穏になるのかというカンファレンスを踏まえて介護計画に記すことが求められる。また暮らしの楽しみは単にレク参加ではなく、「お茶を立てる」「オルガンを弾く」等、具体的に書くことが求められる。介護計画の実施記録は職員が実施した事だけでなく、その時の利用者の発言、様子を書くことが重要である。それをもとにモニタリングをするべきである。</p>
○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>毎日ケース記録に様子やケア内容を記録している。夜勤者、早出、遅出の職員間どうして引継ぎを行い、情報を共有している。ご本人の発せられた言葉や様子を記入するようにしている。</p>		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出したい、自宅に戻ってみたい等職員体制がゆるすかぎり、一つでもその人のニーズに対応できるような支援に努めている。		
○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや文化祭への参加、近くの診療所で映画鑑賞会が月1回行われるので、興味のない人以外はほぼ全員参加している。イベントの時などいつも協力して下さるボランティアの方がおられる。		
○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を大切に、協力医院の往診に付き添い、その他の通院はご家族様が付き添われ受診して頂いている。ちょっとした体調の変化も主治医に伝え家族様にも報告している。	内科医が毎月往診に来てくれ利用者のかかりつけ医となっている。入居前からの医師や病院を受診する場合は家族が同行する。利用者の状態は記録や電話で医師に伝えている。歯科は訪問歯科医を利用、認知症は病院を受診している。	
○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、系列の看護師にちょっとしたことでも相談できる体制はある。協力医と連携して適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者からの情報交換であったり、退院後のケアがスムーズにいくよう病院関係者との関係づくりには注意して対応している。	入院時には安心して治療できるように直近の情報提供を直ぐにしている。病院関係者からの情報交換であったり、退院後のケアがスムーズにいくよう病院関係者との関係づくりには注意して対応している。		
○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取りをする十分な体制は整えられていないが、現在病気を抱えて居られて、家族様ともよく話し合いを持ち、状態が悪くなればすぐに病院に伝える事が出来る様になっている。重度化については入所時に説明、納得されている。	利用者の重度化や終末期に対応する方針の文書はない。契約時に利用者と家族に「看取りはしない」と口頭で伝えている。家族が「延命治療の希望」という意向を述べている。利用者の意向も聞いている。	

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の変化に適切に対応し、必要時救急搬送を行っている。応急手当や初期対応の施設内研修を行い、実践となるよう努めている。		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を消防署の指導の元で行い地域の方や運営委員会役員様の参加を頂いている。施設独自のマニュアル、連絡網をを作成している。</p>	<p>避難訓練は火災想定について年2回実施している。食料、寒さ対策や災害対応の物品を準備している。ハザードマップは相談室に掲示している。職員は危険箇所を把握している。災害時の法人内相互協力体制は日常的に話し合っている。災害時に地域の人に協力して貰うことをお願いしている。</p>	<p>避難訓練は火災のみならず、地震、台風、風水害についても実施することが重要である。また災害時における法人内相互強直体制は無し会うだけでなく、実際に訓練することが求められる。</p>
<b>人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ユマニチュードの勉強会を何度か重ね、職員も理解して言葉かけに注意している。理念にもある様に尊厳を守る事は重要だと、どの職員も考えている。</p>	<p>利用者への対応と言葉遣いについての方針は「丹後弁も交えた丁寧語」である。「決めつけた言葉や命令口調」は職員に禁止している。毎日の暮らしでは、利用者の自己選択を大事にしている。飲み物を選んで貰うために、コーヒー、紅茶、スポーツドリンク、ミックスジュース等を準備している。利用者の髪型は訪問理美容を利用している。3人の利用者は行きつけの美容院へ出かけている。</p>	
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>開かれた質問の解答ができる様になっている。上手に表現できない方には、職員全員で情報を交換し質問の幅を広げて自己決定出来る様努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせ食事や入浴の時間をずらす事もあります。食事に時間がかかる方には焦らせない様、「時間がかかってもいいですよ」と声掛けをし、ペースを崩さない様配慮しています。</p>		
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自宅から持参された好きな服を着用して頂いている。出来る方は自由に着こなして頂き、出来ない方はご本人のイメージに合わせて、天候や行事に合わせて職員が支援させていただいている</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p>			

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の残存能力に応じて調理補助、盛りつけ、味付け、配膳準備を一緒に行っている。ご利用者の好きな物、嫌いな物を聞き、嫌いな物があれば調理方法を考えて摂取して頂く様配慮している。	3食職員の手作りである。食材は3月毎に職員が買い物に行き、職員が献立を立てる。タイヘイのカロリー値や栄養バランス点検済み献立を参考にしている。利用者も買い物に同行したり、野菜の下ごしらえ、大根おろし、天ぶらを揚げる、巻きずしを巻く、卵焼きなど、できることをしている。職員と利用者が同じ食卓を囲み、食事を楽しんでいる。	
○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス等、一人ひとり個別対応している。既往歴に注意し、塩分量、糖分の過剰摂取が無い様気を付けながら支援している。服薬の中には禁止食材がある為気を付けている。		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い、口腔ケアを行っている。出来る方はそのまま見守り、出来ない方は洗面所まで誘導しご自分で洗って頂く様促している。		
○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し排泄状況を把握している。紙パンツやパットなどご本人に合った排泄用品を使用するように心掛けている。尿意の無い方も時間を決めてトイレ誘導を行っている。	ほとんどの利用者は尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処理できるという、排泄の自立をしている。水分、食材、運動で自然排便を支援しているが、ほとんどの利用者は下剤を使用している。	
○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分をしっかり取って頂く様職員間の連携に努め個々に対応した予防に取り組んでいる。オリブオイルを調理に混ぜて摂取して頂いたり牛乳、ヨーグルトを摂取して頂いている。		
○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を確認し、湯の量や湯加減の希望を聞いたり、入浴中はゆっくり湯船につかって頂き世間話をしながらリラクセスして頂けるよう心掛けている。同性介助を希望される方には同性で対応している。	入浴は毎週2回を支援している。入りたい日、入りたい時、介助の職員、湯温、ゆっくり漬かりたい等は利用者の希望になるべく添うようにしている。入浴拒否の人はいない。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日就寝時間・起床時間を記録し睡眠パターンの把握に努めている。就寝時、適温になるよう個々に空調を調整している。希望者には湯たんぽやホットミルクの提供を行っている。		
○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などにより薬の変更があった場合、薬の名前、効能副作用など必要な情報を受診・往診記録に記載し、申し送りノートに記入し引継ぎを行い職員に周知している。		
○役割、楽しみごとの支援	読書が好きな方には、本を提供したり		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や片付け、掃除等は本人の「やりたい」気持ちを尊重して手伝って頂いている。音楽に興味のある方には合唱やカラオケ、テーブルピンポン等興味のある方は一緒にされる		

項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、近所への買い物、なじみの場所など自発的な要望を伺ったり会話の中に出て来る事柄から推測して行きたい場所、見たい物がある場所に外出できるようにしている。回転寿司、ランチ、面白そうな映画があれば映画鑑賞にも行く。	気候が良く天気が好ければ、車椅子の人も含めて利用者は毎日でも散歩に出かけている。ホームの周りで外気浴もしている。ドライブは毎月出かけている。行き先で車からおりて散歩することもある。利用者が「〇〇へ行きたい」、「〇〇を買いたい」と言ったときは、できるだけ同行している。	
○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を渡してもどこにしまったか判らなくなる方は事務所で保管し、買い物など必要時にお渡ししています。		
○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも自由に電話が掛けられる事をご利用者に伝えていきます。電話が掛けられない方は相手の方が出られるまでお手伝いしています。手紙が読めない方には職員が代わりに読ませていただきます。		
○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節の花を飾ったりソファに腰かけながら外の景色を眺めたり生活したりするスペースがあります。玄関先にはプランターに野菜を植えご利用者と一緒に収穫しています。	居間兼食堂(ホール)の壁には季節の飾りを貼っている。季節ごとの行事や桜、ひまわり、紅葉などの花を色紙で作って貼り絵にしている。利用者と職員の合作である。ホールには季節の花を活けている。玄関のプランターには花を育てている。ホールの壁には利用者の習字や塗り絵を飾っている。	
○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居心地の良い場所となるように工夫している。時間があれば気の合ったご利用者同士おしゃべりが出来るように配慮している。		



項目	自己評価	外部評価	
	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、親しんだ物品を居室に持ち込んで頂く様入居時から働きかけを行っている。居室内には使い慣れた家具や手作りの品物、家族様の写真を置かれています。	居室は洋間であり、エアコン、ベッド、椅子、タンスを備えている。利用者は衣装ケース、衣紋かけ、椅子、サイドテーブル、仏壇、家族写真、アルバム、筆記具、衣類、寝具を持ち込んで、自分の部屋にしている。	
○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりが自立して生活ができるように安全性に配慮してあります。廊下やトイレも広く車椅子でも十分対応出来ています。		